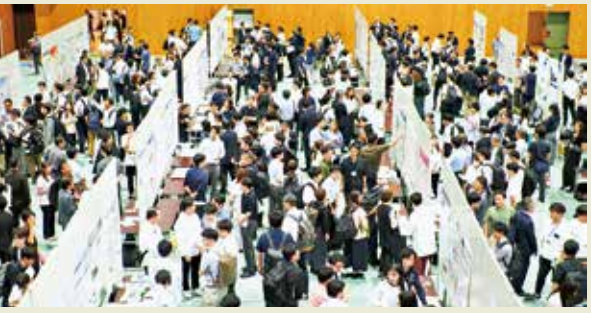
日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）







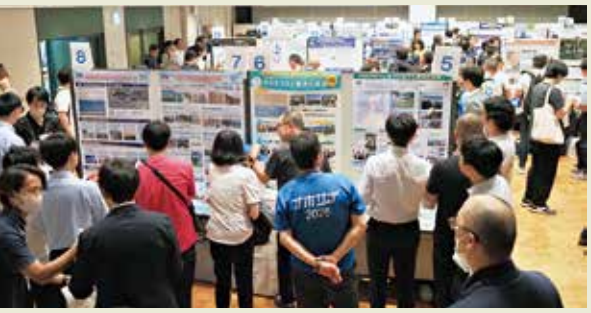
9月4日（金）・5日（土）、湯沢カルチャーセンターで「第21回日本モビリティ・マネジメント会議」が開催されました。この会議は、徒歩や自転車・バス・電車などを使い分け、便利で住みよいまちづくりを考える公共交通とまちづくりの全国会議です。当日は、国や全国の自治体、大学、交通事業者、専門企業など、全国各地で地域交通の体制づくりに取り組む多くの関係者が参加しました。

会場では講演やパネルディスカッションをはじめ、研究発表やポスター展示が行われ、全国の地域交通やまちづくりの取組について活発な意見交換やアイデアの共有が行われました。

また、日本各地で実施されている優れたモビリティ・マネジメント（MM）の取組や研究を表彰する「JCOMM賞」の各賞の表彰式も行われました。湯沢町はこれまで別々だった公共交通や自転車などの移動に関する計画を一つにまとめ、「湯沢町地域移動環境計画」として実際に取組を進めている点などが認められ、「JCOMMプロジェクト賞」を受賞しました。生活のしやすさと観光がしっかり両立した持続可能なまちづくりの計画として、評価をいただいています。

自転車利用環境向上会議 in 雪国魚沼







9月17日（木）・18日（金）、南魚沼市民会館にて「第13回 自転車利用環境向上会議 in 雪国魚沼」が開催され、全国から多くの自治体関係者や専門家が集まりました。

湯沢町をはじめ魚沼エリアは、「雪国魚沼ゴールデンサイクルルート」が国のナショナルサイクルルートに指定されるなど、自転車を活用した地域づくりで全国から注目を集めています。

今回の会議では、安心・安全な自転車の走行環境づくりや、観光・日常での自転車活用の未来について議論が交わされました。

また、参加者が地域のサイクリングコースなどを実際に走って体験する視察（テクニカルビジット）も行われ、湯沢町内ルートには14名の方が参加しました。参加者は越後湯沢駅西口をスタートし大源太砂防堰堤仮排水トンネルを見学しながら町内のルート上およそ19kmを走りました。ゴールデンサイクルルートの名にふさわしい、一面が黄金色に染まった田園風景の中を走ったり、大源太砂防堰堤を下から見上げた迫力ある景色や自然のなかにあるカフェでケーキと飲み物を楽しむなど、参加者の皆さんに湯沢ルートの魅力を知っていただく機会となりました。